

6月5日(金曜日)「わが神、どうして」

【新改訳 2017】

詩篇 22・1－31

「わが神、わが神。どうして、私をお見捨てになったのですか。遠く離れて私をお救いにならないのですか。私のうめきのことばにも……けれども、あなたは聖であられ……ます。」(1－3節)

この詩篇は、私には「まことに神秘的な詩」の一つです。

1、2 節の「神の沈黙」は、不思議でたまりませんでした。しかもこの 1 節は、そのままイエス・キリストが十字架の上で叫ばれた祈りとなっているのです(マタイ27・46 参照)。実は、詩人の信仰体験であったと同時に、メシヤの受難の預言でもあったのです。また「聖」とは、偽り、失敗、不正、

汚れのない完全を意味します。

神を信じる生活にも、神から見放されたのではないかと思う時があります。同時に、そのような中でも神に叫び求め、祈るのが信仰であると教えられます。主イエスの場合は、私たち人間の罪のために完全に身代わりとされたことの叫びでした(イザヤ59・1、2参照)。ですから「赦し」も完全なのです。

～祈り～

主よ。あなたは私たちの罪のために、父から見捨てられ、まったく身代わりとなってくださいました。そのために、全き赦しがあることを感謝いたします。

【学びのために】

メシヤ(キリスト)の受難の詩と言われます。(参考区分) 1-3 節 神の沈黙、4-10 節 神と自分の関係、11-21 節 苦難の

様子と祈り、21-31 節 信仰による感謝と
賛美。